

# 愛知学泉大学・愛知学泉短期大学 「生活と文化」講座

日々の生活や身近にある文化を見つめなおし、暮らしをゆたかにするきっかけとして、愛知学泉大学・愛知学泉短期大学所属の教員による公開講座を開催いたします。ぜひお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

回	開催日	内 容
1	3/ 7 (金)	愛知学泉短期大学 木村典子 准教授 「認知症と向き合い、となりあい」
2	3/10 (月)	愛知学泉大学 加藤万也 准教授 「なんでこれがアートなの？」
3	3/11 (火)	愛知学泉大学 柴田哲谷 講師 「中世紀行文に見る岡崎／「二中」の尾崎士郎」
4	3/13 (木)	愛知学泉大学 上田 裕 教授 「わからないことから始める社会学： 『何でだろう？』を考えてみよう」
5	3/14 (金)	愛知学泉短期大学 根間健吉 教授 「和食パワーで健康長寿 －アクティブ・エイジングの実現をめざして－」

各講座の詳細は  
2ページ目を  
ご覧ください！

**1講座のみ受講も  
大歓迎です！**



- 【開催時間】 10:30～12:00  
 【会 場】 岡崎商工会議所 402会議室 (4階)  
 【受講費】 1回 500円 (当日お支払いください)  
 【定 員】 30名 (申込先着順)  
 【申 込 み】 岡崎大学懇話会事務局  
 (岡崎商工会議所内：岡崎市竜美南1-2)  
 TEL：53-6190  
 【主 催】 愛知学泉大学・愛知学泉短期大学、岡崎大学懇話会

岡崎大学懇話会事務局宛 FAX：0564-57-2189 E-mail [ichikawa@okazakicci.or.jp](mailto:ichikawa@okazakicci.or.jp)

## 「生活と文化」講座

お名前	TEL	FAX	ご住所 または 事業所名	受講希望講座(回)
				1・2・3・4・5
				1・2・3・4・5

※ご記入いただいた情報は、岡崎大学懇話会からの各種連絡・情報提供の為に利用する他、講師には受講者名簿としてお渡します。

回	開催日	内 容
1	3/ 7 (金)	<p><b>愛知学泉短期大学 木村典子 准教授</b>  <b>「認知症と向き合い、となりあい」</b></p> <p>厚生労働省は、2012年の65歳以上の高齢者の認知症患者数は約462万人と推計しています。加速する高齢化の中、認知症高齢者は増していくが予想されます。今後、地域で、認知症高齢者と接することも多くなっていきます。その時に戸惑わないために、認知症への理解が大切となります。この講座では認知症について解説し、認知症になっても、暮らしていけるまちづくりについて考えていきたいと思ひます。</p>
2	3/10 (月)	<p><b>愛知学泉大学 加藤万也 准教授</b>  <b>「なんでこれがアートなの？」</b></p> <p>20世紀のアートは、変革の時代でした。多様なアート表現を詳しくみていくことで、どうしてそんな表現をしたのかが浮かび上がってきます。ピカソから現代の奇妙な世界中のアートまでを時系列で俯瞰することにより、現代アートがどこに向かおうとしているのか？その面白味や旨味をわかりやすく解説します。</p>
3	3/11 (火)	<p><b>愛知学泉大学 柴田哲谷 講師</b>  <b>「中世紀行文に見る岡崎／「二中」の尾崎士郎」</b></p> <p>○江戸時代に大きな宿場として賑わった岡崎は、鎌倉時代（中世前期）にはどうだったのでしょうか。『海道記』『東関紀行』などの記述を辿ってみます。          ○旧横須賀村（西尾市）出身の作家尾崎士郎は、大正初期に愛知県立第二中学校（岡崎高校）に学びました。同校の「学友会報」から当時の姿を垣間見ようと思ひます。</p>
4	3/13 (木)	<p><b>愛知学泉大学 上田 裕 教授</b>  <b>「わからないことから始める社会学：          『何でだろう？』を考えてみよう」</b></p> <p>社会学がどのような見方をする学問なのかを概説する。そして社会学という見方をすることで、新聞報道だけではわからないところを、考えてもらいたい。「赤ちゃん取り違え事件の何が最も問題か？」、「ネットをしない子どもは勉強ができる？」、「オカザえもんはゆるキャラ？ どうして人気が出たの？」・・・私たちの日常の何気ない会話や行動も社会学の見方をすれば重要な意味が見えてくることがあります。これをみなさんと一緒に考えてみようと思ひます。</p>
5	3/14 (金)	<p><b>愛知学泉短期大学 根間健吉 教授</b>  <b>「和食パワーで健康長寿          -アクティブ・エイジングの実現をめざして-」</b></p> <p>日本の食文化の普遍的な価値が認められ、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されました。四季折々に山海の幸を活かし、自然との繋がりを特徴とする和食のスタイルには、「一汁三菜」という健康長寿に繋がる知恵の塊もあります。そこで今回は、この考え方を400年前に先取りして75歳の天寿を全うした徳川家康の食生活について学び、いつまでも若々しく活動的に年輪を刻むための秘訣を探ります。</p>